

# 南山短期大学人間関係研究センター事業報告 (1989年度)

## 社会人研修

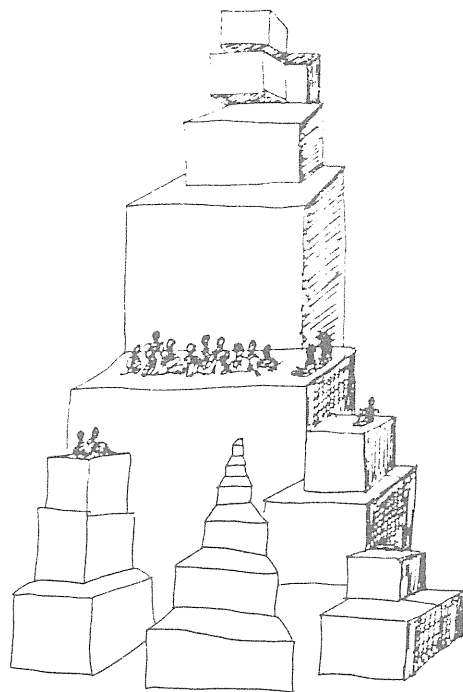
1. 社会人研修概要 .....	209
2. 人間関係基礎研修講座（一般研修） .....	210
3. 人間関係専門研修講座（継続研修） .....	213
4. 人間関係特定研修講座 .....	215
5. コンサルテーション .....	217
6. 社会人研修参加者統計 .....	219
7. 1990年度人間関係研究センター事業予定 .....	220
南山短期大学人間関係研究センター規定 .....	225



## ■ 社会人研修／概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、昭和52年のセンターの発足時から毎年定期的の開講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果している。

基礎研修講座（一般研修）は昨年春秋3回開催され、既に26回を重ねている。基本的なプログラムは週1回約3時間（午後6時30分～9時）の研修を10週間（これまでは8回だったが2回増やした）続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基礎的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合もある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。一昨年からスタートした、中部地区では、はじめての、Tグループを中心とした人間関係トレーニングやセルフサイエンスセミナーは回数を重ね、TAセミナー、からだことばのセミナーは、宿泊研修から、センターでの通い研修にかわった。また、新しく、ゲシュタルト・アウェアネスセミナーも開講された。

特定の専門職にある人々のための特定研修講座としては、ひきつづき、「教師のためのセミナー」、組織の中での教育にかかわったり、関心をもっている人のための「組織内教育セミナー」も、回数を重ねている。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門的機能であり、1984年度には「名古屋いのちの電話準備委員会」に対して約100名の電話相談ボランティアの「人間関係基礎訓練」の訓練計画の立案・実施の援助を行った。その後、この「名古屋いのちの電話」は1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助をしている。

---

## ■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたいなど人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習や個人やグループで実施しながら、体験的に学習していく。

この研修は、春・秋各一回毎週一回ウィークデイの夜間（6：30～9：00）を用いての、10週間のコースと月曜日の午前を用いての同一プログラムがある。

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問わない）

〔参加定員〕 各30名

この講座は開講当初は「入門講座」と称していたが、第9回から「基礎研修」と改められ、これまで通算26回、参加者821名を数えている。

ここでは、その中から第24回講座を報告する。

### 第24回人間関係基礎研修講座

開講期間：1989年4月25日～7月11日 毎週火曜日午後6時30分～9時 10回

参加者：25名

担当者：星野欣生、まどか庸代

ねらいは前回までの基礎研修講座と同じである。

「今、ここのお互いの関係のなかで

- ・自分がどのような動きをしているか
- ・他者がどのように動いているか
- ・相互にどのように影響しあっているか
- ・どんな行動パターンがあるか
- ・じぶん、他人がどのような価値観をもっているか
- ・グループのなかにどのようなことが起こっているのか

などに気づき

自分、他者、グループに適切な行動をとる。」

今回のこの講座の特徴は、回数が10回と増えたこともあり、プログラムの展開を、従来と比べて、ある部分変えたことである。

全体を大きく4つのブロックに分けた。

(1) 2回 【講座への導入】

ここでは、参加者が互いに知り合うきっかけづくりや、体験学習という、ここでの特色ある学習方法を実際に体験した。また、学習のための相互契約の時間でもあった。

(2) 3回 【対人間のプロセス】

個人がもっている価値観などの枠組、話す、聴く、観るというコミュニケーションの諸問題、非言語コミュニケーションがとりあげられた。

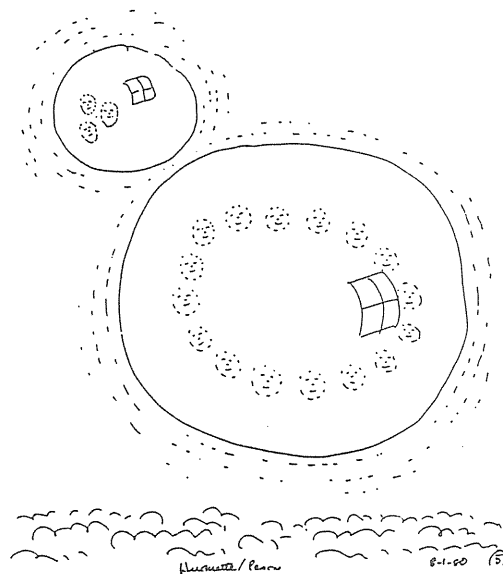
(3) 4回 【グループ・プロセス】

グループの見方（グループ活動の観察とフィードバック）、グループ・プロセスと日常生活、リーダーシップ、集団の意思決定、チームワークなどが、さまざまなグループ活動を通して、とりあげられた。

(4) 1回 【講座のおわりに】

これらのプログラムは、個人の気づきを深めたり、対人間やグループへの働きかけのスキルを養うために、充分工夫された、体験学習のためのさまざまな教材を使用して進められた。講義は、少なく、体験を一般化するための助けとして行なわれた。

参加者の多くは、回を重ねるにしたがって、共に学ぶ仲間と会えることが楽しみになったり、次は、どのような体験ができるかに強い関心をもつようになり、毎回、欠席者は少なかった。講座終了後も、仲間の集まりをもっている。



第24回 人間関係講座 全日程表

人間関係研究センター  
1989.4.25~7.11  
日程表

6:30	No.1 4月25日 開 会 「講座の入口で」 ・お互いに知り 合うきっかけ をつくる ・講座への期待 やねらいを 共有化する	No.2 5月9日 「体験学習を 体験する」 実習 「バスは待って くれない」	No.3 5月16日 小講義 「体験学習 について」 「対人間の プロセス」 (1) 小講義 「プロセスとは」 実習 「流れ星」 プロセスタイム 小講義 「コミュニケーションとは」 7:45	No.4 5月23日 「対人間の プロセス」 (1) つづき 実習 「思い込み」 小講義 「コミュニケーションを妨げ ているもの」 ..... 休 憩	No.5 5月30日 小講義 「聴くこと」 6:45 「対人間の プロセス」 (3) ..... 実習 「無言の 集団作業」 プロセスタイム ..... 休 憩	No.6 6月6日 小講義 「観ること (非言語コミュ ニケーション)」 小講義 「感情、 感情表出」 7:20 「グループ・プロセス」 (1) 小講義 「グループの 見方」 実習 「グループ 活動と観察」 (1) 「危機からの脱 出」(1)を実施	No.7 6月13日 「グループ・プロセス」 (1) つづき 実習 「グループ 活動と観察」 (2) ..... 「危機からの脱 出」(2)を実施	No.8 6月20日 「グループ・プロセス」 (2) 実習 「コンセンサス 法による 集団意志決定」 ..... 「N A S A」 を実施 ..... 休 憩 ..... プロセスタイム ..... コメント	No.9 7月4日 「グループ・プロセス」 (3) ..... 実習 「ブロック・ モデル」 ..... 休 憩 ..... プロセスタイム	No.10 7月11日 「グループ・プロセス」 (3) つづき 小講義 「意志決定に ついて」 「リーダーシップ について」 7:15 ..... 「講座の おわりに」 ..... 実習 「私の旗じるし」 ..... わかちあい ..... 8:20 ..... みんなで 語りあう (お茶を共に しながら) 8:50 アンケート	6:30	7:00	7:30	8:00	8:30	9:00
------	---	--	---	---	---	---	--	--	--	--	------	------	------	------	------	------

---

## ■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

### ● TAセミナー

開催期間 1989年5月12日～7月21日 毎週金曜日 午後6時30分～9時 10回  
参加者 20名  
担当者 中堀仁四郎

講座のねらいとして

- ・トランザクショナル・アナリシス（TA）の基本的な考え方を理解する
- ・TAを用いて自己理解を深める
  - 自分の行動の基にあるものに気づく
  - 自分のなかの可能性を見つける
- ・自律的な人間関係のありかたを探る

が提示され、あわせて、参加者自身のねらいも明確にした。

また、TAで大切にすることとして、

いまここ

自発性

親密

私はOK、あなたはOKの関係であることに気づき、それを生きていく。

を、お互いに諒解して、プログラムが始まった。

プログラムの概要

- (1) 導入、ねらい、学習のすすめ方
- (2) 自我状態Ⅰ
- (3) 自我状態Ⅱ
- (4) 自我状態Ⅲ
- (5) ストローク
- (6) やりとり分析
- (7) スタンプ集めとラケット
- (8) 時間をどのように使っているか
- (9) 人生脚本Ⅰ
- (10) 人生脚本Ⅱ

参加者の感想（アンケートから）

- ・自分で奢っていた所があったように思う。違った面から自分をみつめてみたい。
- ・自分のこころの状態に気づきやすくなった。
- ・「～でなければならぬ」の制約が減ってきた気がする。
- ・もっと時間が長かったらよい。
- ・自分を一つ新しくした。
- ・自分を客観的にみつめるきっかけになった。
- ・物事の両面をみるように心がけている。
- ・理論と実践がうまくミックスされていて、楽しく参加できた。

## ● からだとことばのセミナー

昨年度は、2泊3日の宿泊だったが、今年度は、3日間の通いの形で実施した。

このセミナーの反響は、非常に大きく、日程の発表後、一週間もたたない間に、満員となつてしまい、多数の方々の要望におこたえすることが出来なかった。参加された方は、地元3県の他、札幌、福島、東京、金沢、静岡、京都、神戸と、全国規模で多彩だった。

開催期間 1989年7月21日～23日 3日間 南山短大 21教室

参加者 30名

担当者 竹内 敏晴

参加者の感想（アンケートから）

- ・「声のでた」という実感がもてた。
- ・自分をもっと相手に印象づけるように表現していくこと。
- ・自分のありのままの姿を知ることは苦しくつらいことです。
- ・私にも声のでる、からだの力が抜けるということが体験できた。
- ・「感情」を大切にしていないと改めて思った。
- ・自分の気持ち（本心）に気づいた。
- ・自分の気持ちどおりに素直に動けないもどかしさ。
- ・人が出会う、ふれあうことの意味が分かった。
- ・人と人が出会うということのエネルギーの存在に気づいた。
- ・身体が正直、語っているということが始めて分かった。

## ● 第3回人間関係トレーニング（Tグループ）

今年度は、会場を、御岳高原に移して実施した。紅葉にはまだ早い時期だったが、1400mの高原の空気を満喫しての、自由な雰囲気ですがすがしいトレーニングであった。

開催期間 1989年9月15日～20日 5泊6日

場 所 御岳名古屋市民休暇村（長野県）

参加者 8名

担当者 中堀仁四郎・津村俊充

実施されたスケジュールは別表のとおりであるが、特色としては、

- (1) トレーニング全体の日程の予定表が第1日目導入のところでメンバーに配布された。  
先の見通しをもちながら落ち着いて学習することができたと思われる。
- (2) 毎朝9時から、30～60分程度、小講義セッションがもたれた。



ねらいとして提示されたものは、

今このかかわりの中で

- ・自分や他者のありように気づく
- ・グループの中でのお互いの影響関係に気づく
- ・応答することを通して人とのより深い関わりを試みる

であった。

参加者の感想（アンケートから）

- ・自分の話すパターンについて発見。
- ・人（自分）の心とかかわれる場をもてた。この感触を大切に生かしたいと思う。
- ・自分を受け入れることができた。
- ・人とより深い関係を試みたいとねらって行動した事が大きなエネルギーを生み出した。
- ・「やさしさ」「大きな人間」→ これから学んでいきます。
- ・自分を否定すると何も出来なかったが、今は、いとおしく思えるので何か出来そうな気がする。
- ・内面の思索の世界と人との感情的交わりが共存しえるということを学んだ。
- ・心のつぼを満たした。
- ・相手の表情、心の動き、行動を感じとることの大切さとそれを感じとった時のすばらしさに気づいた。
- ・相手をありのままに受けとめること → それができる自分がうれしかった。
- ・自分のことで、こんなに深い所にまでたどれるものなのかを体で体験した。
- ・客観的に自分をみる機会などないし、こんなに一つのことについて長い時間をかけて考えるということも実生活の中ではできないので、とてもよい時がもてた。

## ● その他

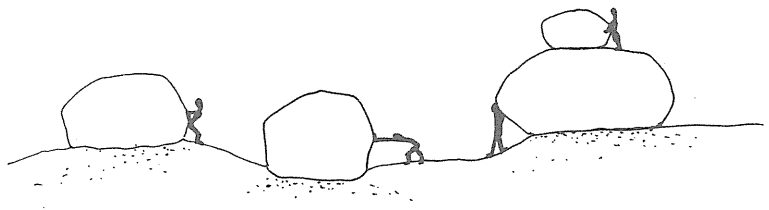
セルフサイエンス・セミナー、ゲシュタルト・アウェアネスセミナーが実施された。

---

### ■ 社会人研修／人間関係特定研修講座

- ・第6回 教師のためのセミナー
- ・第3回 組織内教育セミナー

が前年度に継続して実施された。



全 日 程 表

人間関係研究センター  
御岳 1989.9.15～20

第1日 9月15日(金)	第2日 9月16日(土)	第3日 9月17日(日)	第4日 9月18日(月)	第5日 9月19日(火)	第6日 9月20日(水)
8:00	朝食 G(2)「今ここに起っていること」 プロセスとコンテスタ 休憩	朝食 G(3)「コミュニケーション」 プロセスとフィードバック 休憩	朝食 G(5)「自己概念」 9:30 休憩	朝食 T (2) 10:15 10:30 ふりかえり用紙記入 10:45 休憩	朝食 9:30 チェックアウト G (9) 「この研修で学んだことは」
9:00	T (3) ふりかえり用紙記入	T (6) ふりかえり用紙記入	T (9) ふりかえり用紙記入	T (3) 12:15 12:30 ふりかえり用紙記入	閉会 (アンケート) 11:30
9:45	自由 (田の原高原散策)	自由 14:30	自由 G (6) 「塔づくり」	昼食 休憩	昼食
10:00	T (4) T (4) ふりかえり用紙記入 休憩	G (4) 「グループと その中の自分」 16:25 16:40 休憩	16:05 16:30 休憩	G (8-1) Tグループのふりかえり (個人) 休憩	
11:45	夕食 T (5) ふりかえり用紙記入 休憩	T (7) ふりかえり用紙記入	T (10) ふりかえり用紙記入	G (8-2) Tグループのふりかえり (グループ) 夕食	
12:00	T (8) T (8) ふりかえり用紙記入 夜のつどい	T (8) T (8) ふりかえり用紙記入 夜のつどい	T (11) 9:20 ふりかえり用紙記入 夜のつどい	T (8-2) 20:30 コミュニケーション 21:30	
13:00	夕食 T (2) ふりかえり用紙記入 夜のつどい	夕食 T (8) T (8) ふりかえり用紙記入 夜のつどい	T (11) 9:20 ふりかえり用紙記入 夜のつどい	夕食 T (8-2) 20:30 コミュニケーション 21:30	
14:00					
15:00					
15:20					
17:00					
17:45					
18:00					
19:15					
20:45					
21:00					
21:15					

---

## ■ コンサルテーション

### ○ 「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など30余りの都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在130名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎訓練は「自己理解を深める」をねらいとして、1回2時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案し、1985年度は第2期生（50名）の基礎訓練を1986年1月から3月に実施した。1986年度は第3期生（60名）の基礎訓練を1986年10月から12月に、1988年度は第4期生（37名）の基礎訓練を1988年4月から7月に実施し、1989年度は第5期生（32名）の基礎訓練を1989年9月から12月に実施した。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係（自分との、他人との）のなかにある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この訓練は、電話相談養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人のかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることからの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1986～1989年度コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講 座 名	主 催
<p>電話相談コンサルテーション                      スクールODコンサルテーション                      リーダーとして備えるべきものは何か                      情動を大切にされた教育                      グループリーダー研修会                      出会い・ふれあい・結婚                      ヘルスカウンセリング指導者養成講座                      人間関係訓練                      教師と生徒とのコミュニケーション                      の中でどこまで訊けるか                      人と人とのコミュニケーションについて                      カウンセリング講座初級講習会                      青少年担当者・指導者養成事業                      箱庭療法                      箱庭療法研究会                      人間関係トレーニング(Tグループ)                      「おとしよりの人間関係・チームワーク」体験学習                      教師と生徒の人間関係                      リーダーシップについて…理論と実践…                      習熟度別学習指導について                      望ましいグループリーダー養成講座                      PFスタディーの理論と実践                      人間関係トレーニング                      …自己理解・他者理解のために…                      非行少年の箱庭                      生き生きグループ活動                      昭和63年春期アドバンスコース                      患者理解を深めるために                      箱庭療法ケースセミナー                      東海市教育委員会主催ヤングセミナー                      人間関係をよくするために                      女性が学ぶこと、ライフサイエンス                      カウンセリング講座                      学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」                      箱庭療法夏期研修会                      老人福祉関係職員等研修事業                      勤労青少年リーダー養成研修会                      企業経営＝職場でのコミュニケーション                      私学協会教育相談研究会                      サークル活動をデザイン                      研修・研究の調査                      女性講座                      気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる                      女性セミナー                      グループの中の人間関係                      女性管理者養成講座                      生徒指導のあり方</p>	<p>名古屋いのちの電話                      聖カピタニオ女子高等学校                      東海理化労働組合                      遠州カウンセリング研修会                      名古屋市千種社会教育センター                      名古屋市瑞穂青年の家                      愛知県教育委員会                      名古屋市民生局                      愛知県私学協会研究部                      東海市教育委員会                      愛知県看護協会                      愛知県総務部                      財団法人関西カウンセリングセンター                      兵庫教育大学生徒指導講座                      遠州カウンセリング研究会                      名古屋市民生局                      中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会                      愛知県労働部                      香川県立小豆島高等学校                      名古屋市千種社会教育センター                      宝塚市立教育研究所                      財団法人関西カウンセリングセンター                      大阪家庭裁判所                      名古屋市昭和社会教育センター                      関西カウンセリングセンター                      浜松市立看護専門学校                      メンタルヘルス研究所、東京                      東海市立青少年センター                      戸塚協会名古屋支部                      名古屋市教育委員会：名古屋市婦人会館                      愛知県看護協会                      名古屋市教育委員会                      兵庫教育大学生徒指導講座                      名古屋市民生局                      愛知県労働部労働福祉課                      名古屋商工会議所                      愛知県私学協会                      名古屋市瑞穂青年の家                      奈良県教育センター                      春日井市いぶき会                      名古屋青年会議所                      名古屋市中社会教育センター                      名古屋市婦人会館                      日本経営管理協会中部支社                      平和町立平和中学校</p>

参加者統計表

■ 社会人研修／参加者統計

講座名	場所	担当者	期	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職							業					年齢				
							男	女	市内	市外	公務員	団休職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教員関係	主婦	主学生	その他	無回答	20才以下	20～29才	30～39才	40～49才	50才以上	無回答
前回まで						753	214	539	491	262	44	38	209	25	67	116	32	102	71	49	0	378	202	119	51	3	
第24回基礎研修	南山短大	星野まどか	H1.4/25～7/11	18:30～21:00	火	24	6	18	11	13	0	0	9	1	4	4	0	2	1	2	1	14	2	6	1	1	
第25回基礎研修	〃	伊藤佐竹	H1.5/8～7/17	9:30～12:00	月	18	2	16	11	7	0	0	0	1	0	4	1	9	0	2	1	3	5	5	0	0	
第26回基礎研修	〃	山口津村	H1.9/28～12/21	18:30～21:00	木	26	5	21	14	12	1	0	6	0	6	8	0	3	0	2	0	17	3	5	0	1	
計						821	227	594	527	294	45	38	224	27	77	132	33	116	72	55	2	412	212	135	57	5	
前回まで						262	59	203	159	103	18	21	72	6	34	43	5	22	24	15	2	114	77	49	19	3	
継続研修 TAセミナー	南山短大	中堀	H1.5/12～7/21	18:30～21:00	金	20	3	17	5	15	0	0	8	0	3	3	0	3	0	3	0	9	3	7	1	0	
継続研修 からだごとことばのセミナー	〃	竹内	H1.7/21～7/23	3日間 集中		30	7	23	11	19	3	0	8	0	7	6	0	1	4	1	0	12	11	6	1	0	
継続研修 ゲンタウクアウェアネスセミナー	〃	山口	H1.9/19～12/19	18:30～21:00	火	13	2	11	6	7	0	0	8	0	0	2	0	0	0	3	0	9	2	2	0	0	
継続研修 セルフサイエンスセミナー	〃	津村	H1.9/22～12/22	18:30～21:00	金	17	5	12	10	7	0	0	9	1	3	1	0	0	0	3	0	10	4	3	0	0	
継続研修 Tグループ	御岳 休暇村	中堀 津村	H1.9/15～9/20	5泊6日		8	4	4	3	5	0	0	6	0	1	0	0	0	1	0	4	2	2	0	0		
計						350	80	270	194	156	21	21	111	7	48	55	5	26	28	26	2	158	99	69	21	3	
前回まで						129	42	87	72	57	0	6	21	6	2	65	25	1	0	3	0	27	47	31	23	1	
教師のためのセミナー	南山短大	河津	H1.7/28～7/30	3日間 集中		19	4	15	8	11	0	0	0	0	1	16	0	0	0	2	4	11	3	1	0	0	
組織内教育セミナー	〃	星野	H1.9/23～H2.2/17	14:00～17:00	土	15	9	6	5	10	1	0	7	1	3	1	0	1	0	1	0	2	4	7	2	0	
計						163	55	108	85	78	1	6	28	7	6	82	25	2	0	4	2	33	62	41	26	1	
総計						1334	362	972	806	528	67	65	363	41	131	269	63	144	100	85	6	603	373	245	104	9	

---

## ■ 社会人研修／人間関係研究センター1990年度事業予定

南山短期大学人間関係研究センター

The Center for the Study of Human Relations  
of Nanzan Junior College

個性ある生き方と人間性豊かな社会をつくり出すために

私たちは一人ひとり豊かな人間性と独自の個性を持ったかけがえのない存在です。ところが現代社会の中で私たちは、役割の中に埋没し、互いに心を閉ざし、かかわり合うことをおそれ、人間をあたかも物の如くに扱い、自分も取るに足らぬ者としか感じられなくなっていないでしょうか。

人間関係の教育は、対話を通して自分の価値観や人生観をみがき、他者への思いやりと感受性を豊かに養い、ひとりひとりが生かされるグループや共同体を形成し、人間疎外の社会を愛と信頼関係のあふれる人間尊重の社会へと変革することと、それらの担い手を育てることに取り組めます。

いまこそ本当に人間関係の教育が必要とされているのです。

---

### 一般研修

---

#### 人間関係講座 一基礎研修一

自分自身のことをもっとよく知りたい、自分の行っているコミュニケーションのあり方を点検したい、グループのメンバーとしての自分の能力をみがきたい、など人間関係の学習の主要テーマを、特別に開発された実習を、個人やグループになって行いながら、体験的に学習してゆきます。この研修は、毎週一回ウィークディの午前中（9：30～12：00）と夜間（6：30～9：00）を用いて、10週間で一コースになるように計画されています。春2回・秋1回開催しております。

#### 第27回 人間関係基礎研修講座

1990年5月7日（月）～7月16日（月）午前9時30分～12時

#### 第28回 人間関係基礎研修講座

1990年5月11日（金）～7月20日（金）午後6時30分～9時

#### 第29回 人間関係基礎研修講座

1990年9月28日（金）～12月21日（金）午後6時30分～9時

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 30名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 17,510円（消費税を含む）

---

## 継 続 研 修

---

基礎研修を終了した方や、既に体験学習による研修に参加したことのある方で、さらに学習を深めたい方々のための研修です。宿泊あるいは通いで集中的グループ体験による研修や毎週一回12回程の研修が予定されています。

### T A入門

エリック・バーンによって開発された交流分析（T A）を用いながら、自分自身の自我状態や人生脚本の点検を通して、他者と共に生きる自分のあり方をさぐります。

〔日 程〕 1990年10月4日（木）～12月6日（木）午後6時30分～9時

〔担 当 者〕 中堀仁四郎

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 15名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参 加 費〕 20,600円（消費税を含む）

### アドバンスT A「T Aによる自己啓発」

T Aを中心に、ゲシュタルトセラピーなどの考え方もとりいれながら、自己に焦点をあてます。ゆったりとした環境の中で、グループで助け合いながら、自分をふりかえったり、自分の可能性を探ったりして、エネルギーを充電する時としたいと思っています。

〔日 程〕 1990年3月21日（木）～23日（土）2泊3日

〔担 当 者〕 中堀仁四郎

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で、原則としてT Aの入門コースを経験している方

〔参加定員〕 10名

〔会 場〕 〒396-04 長野県伊那郡長谷村浦 TEL (0265) 98-2792

〔参 加 費〕 25,750円（消費税を含む）

滞在費は実費（15,000円程度）を別途徴収します。

### セルフ・サイエンス

アメリカ（University of Massachusetts）にて、ウエインシュタイン教授が提唱するトランペット・セオリー（The Trunpet）に基づいて、対人関係の中で自分の行動パターンを明確にするとともに、そのパターンの変革を試みようとしています。

〔日 程〕 1990年12月2日（火）～12月25日（火）午後6時30分～9時

〔担 当 者〕 津村俊充

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）で原則として基礎研修または体験学習を主とした研修に参加された方

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 20,600円（消費税を含む）

### からだとことばのセミナー

人が人と向いあい、近より、ふれ、かかわり、そして応え、ことばを交わすこと、その基盤となる自分のからだに気づき、動き出してみようと試みてみたいと思います。

- ・ひとにふれ切れない自分にきづく
- ・自らのからだのこわばりにきづく
- ・からだをときほぐす
- ・感じるままに動く
- ・他者に働きかける
- ・ことばで働きかけ、そして応える

短い時間でどれだけのことが成り立つかわかりませんが、からだ全体が深くいきいきと動き出す感覚が、湧き出てきたらいいな、と思います。

〔日 程〕 1990年7月26日（木）～28日（土）（3日間集中）

〔担当者〕 竹内敏晴

〔参加定員〕 30名

〔会 場〕 南山短期大学

〔研修費〕 30,900円（消費税を含む）

### ボディワーク・セミナー

生きるということ、私が生きるということを考え、成長しようとする時、様々な道があります。

その手がかりの一つとして、からだという、実際に見たり触れたりできるものがあります。

このセミナーでは、自分のからだに気づくいろいろな実習を通して、より自然でゆったりとしたからだ♥自分になってみようとするものです。

〔日 程〕 1990年5月12日（土）～7月21日（土）午前9時30分～12時

〔担当者〕 グラバァ俊子（南山短期大学）

〔参加資格〕 20才以上の健康な方（男女・学歴は問いません）

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 17,510円（消費税を含む）



### —人間関係トレーニング（Tグループ）—

「人間関係トレーニング」では、小グループという“今・ここ”の場の中に生じるメンバー間のコミュニケーションや影響関係を学習の素材とする学習方法をとります。実際に自分が、他者とのように関わっているかに気づき、吟味し、新たな可能性を試みることを通して、人間存在に対する理解を深め、人間関係の本質を体験的に学んでゆきます。そこでのひとつひとつの影響関係が有機的につながって、より深い人間関係を生み、次第にグループというまとまりが育っていく過程の学習そのものを学びます。

〔日 程〕 1990年9月14日（金）～19日（水）5泊6日

〔担 当 者〕 星野欣生・山口真人・伊藤雅子・まどか庸代

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 御岳名古屋市民休暇村

〔参加費〕 51,500円（消費税を含む）（滞在費は35,000円程度別途徴収）

---

## 特 定 研 修

---

### 教師のためのセミナー

「子供の真実の姿を理解していることは、効果的でなお創造性のある授業の実現に半ば成功したようなものだ」と言われますが、現在の教室での状況はいかがでしょうか。子供の真実の姿を理解するどころか、教師として子供たちの見せかけの言動にまどわされたり、色眼鏡で子供たちを見てしまったり、自分の感受性の乏しさに気づかないこともしばしばですし、逆に子供たち自身が自分の真実を見失ってしまっていることすら起こっています。このセミナーでは、学級の中の子供たちのありのままの姿をみる目を養い、ひとり一人の子供の真実に迫る視点を探ります。

このセミナーのプロセスは教職にある人々の相互啓発による自己発展と自己成長の機会になると思います。

〔日 程〕 1990年7月23日（月）～25日（水）（3日間集中）

〔担 当 者〕 河津雄介（百芳教育研究所）

〔参加資格〕 現在教職についている方または教育に関心の深い方

〔参加定員〕 20名

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加費〕 30,900円（消費税を含む）

### 組織内教育セミナー

円高ドル安、社会の高齢化などきびしい社会情勢の中で、企業内教育はいま一つの曲り角にあるといわれますが、いかがでしょうか。このような機会に、日頃企業内の教育にかかわっていたり、関心をもっておられる人たちが集まって勉強会を持ってみたいと思ひ、次のような企画を立ててみました。気楽に、話し合ったり、実習をしながら、これからの企業内教育のあり方などを共に探りたいと思います。

〔日 程〕 1990年9月29日（土）～1991年2月9日（土）午後2時～5時

〔担 当 者〕 星野欣生

〔参加資格〕 組織内の教育研修に関心のある方

〔会 場〕 南山短期大学

〔参加定員〕 20名

〔受 講 料〕 41,200円（消費税を含む）

注）1990年度開講予定のプログラムの日程等に関するご質問は南山短期大学人間関係研究センター（Tel. 052-832-6214・6211）までお問い合わせ下さい。



## 南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教の人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

### 付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

## 南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1989年4月～1990年3月）

センター長	星野 欣生				
研究員	會澤 俊三	グラバア俊子	樋田大二郎	市瀬 英昭	伊藤 雅子
	河津 雄介	木村 晴子（在スイス）		まどか庸代	宮本 桂
	文珠紀久野	中堀仁四郎	中野 清	大森 正樹	R. A.メリット
	鈴木 貞雄	竹内 敏晴	津村 俊充	山口 真人	（ABC順）
事務局	黒田 美樹	高嶋由紀子			

# 編集後記

立春もすぎて、ころなしか、春の足音が、すぐそこまできているようなこの頃です。1年がかりの原稿あつめも、やっと終わって、ほっと一息。

思えば、昨年から今年にかけて、世界は、人類がこれまでに経験したことのないような激動の渦に巻き込まれました。ベルリンの壁の解放、正に、晴天の霹靂でした。相ついで、東欧諸国の体制変革。ソ連も例外でなく、地球社会は、大きく展開しはじめています。日本は、何となく、枠の外におかれているようで、気になるところですが。

このような時に、「人間関係」第7号が、「Tグループ」を特集したのは、あながち、それらの動きと無縁であるように思えません。もちろん、直接、関係があったわけではないのですが、掲げている旗印は、それ程違ったものではないのです。「ヒト（生き物）が、生き生きと生きていける社会をつくる」。それは、口で言う程やさしいものではありませんが、私達は、そのための努力を、どこかで、忘れてしまっていないでしょうか。Tグループを核としてすすめられる、ラボラトリートレーニングが指向するところは、正に、この社会に人間を回復させることです。それは、単なる人間関係のトレーニングではなく、人と人がかかわり、出会っていくことを通して、人間社会を変革していこうとするものです。私達の歩みは、遅々たるものですが、休まず、たゆまず、社会に一石を投じていきたいと思っています。

「人間関係」に、Tグループを特集するのは、創刊号につづいて2回目です。その間、私達、人間関係科の教員は、さまざまな模索をつづけながらも、一步一步、人間関係を探り、体験を重ねてきました。その成果が、途中経過も含めて、ここに現すことができたと思っています。こうして、集まった原稿をみてみると、Tグループの奥深さを、いまさらのように思い知らされます。と、ともに、勉強の足りなさを痛感しています。これを機会にして、まわりの方々からの暖かいフィードバックを、沢山いただき、一層深めていきたいものです。

人間関係研究センターも、創設後、10年を経過し、中部地域にしっかりと根づくことができたのではないかと考えています。今年度1年間で、200人近い人が、センターの門をくぐられ、得られた種の一粒一粒を、そのまわりに、着実に蒔いていってくださっていると思っています。この10年間では、1330人にもなります。センターの研究紀要である「人間関係」も7号になりますが、北海道から鹿児島まで、はば広く、愛され、読まれています。毎号1000部つくっていますが、この頃は、1年で底をつきかねない有様です。嬉しい悲鳴をあげています。

名古屋で産声をあげた「人間関係」ですが、人間関係研究センターともども、その成長に、今後とも、皆さんがたの一層の暖かい手を、かしていただきますよう、お願いいたします。最後になりましたが、この号も、発行にこぎつけるまで、随分、たくさんの方々に、お世話になりました。とりわけ、毎号、無茶苦茶といってもいい程無理を言って、それを聞いてくださっている、尾頭橋印刷所の佐藤さんはじめ、スタッフの方々にも、ここで、あわせて深くお礼を申し上げます。

1990.2.6

(星野 欣生 記)

目次

特別講演 コンティンジェンシー理論について—現状と課題— 野中郁次郎 2
特集 「Tグループ」
JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その1) 中嶋仁四郎 11
高等教育におけるTグループの実践 星野欣生・山口真人 36
人間関係科Tグループ実践をめぐって— 壇 談 会 77
Tグループによる学習過程理解のための方法論的研究1)
—学生形成過程表現による雰囲気理解への多角的アプローチ— 津村 俊充 90
Tグループに於ける女性
—規範と性別に由来する問題点— KANTER・倉澤俊三 99
専業報告 (1977年～1983年)
I 研究会
1. 「コンティンジェンシー理論について」 野中郁次郎(橋大学) 108
—現状と課題—
2. 「大学教育におけるTグループ通用の試み」 星野 欣生(南山短大)
—教育の変革を求めて— 山口 真人(南山短大) 109
3. 「これからのカウンセリングのあり方」 小林 純(上智大学) 111
4. 「わたしの歩んできた道」 松山 徳嗣(土曜大学) 113
5. 「ヒューマニスティック・エデュケーション
の動向と自己成長への身体的アプローチ」 グラハア俊子(南山短大) 116
6. 「フーバーと教育」—我と汝を中心にして— 襄行寺 功(金沢大学) 118
7. 「With-nessということ」 星野 欣生(南山短大) 120
—教師・学生関係について—
8. 「関係の神学」 奥村一郎(聖母女学院短大) 122
9. 「教育を考えなおす」 伊東 博(橋本国立大学) 126
10. 「からだ・ことば」 竹内敏晴(名城教育大学) 128
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 132
2. 人間関係専門研修講座 134
3. 人間関係特定研修講座 137
4. 社会人研修参加者統計 140
5. 1984年度社会人研修予定 141
III 南山短期大学人間関係研究センター規程 142
IV 南山短期大学人間関係研究センター研究員 143

目次

特別研究会 人間関係の教育 河合 雄雄 2
特集 「人間教育における体験学習」
I 高等教育における体験学習
1. 南山短期大学人間関係科の教育の概観— 10年の歴史と展望— 星野 欣生 39
2. 人間関係科における教育の試み
— 見直された体験学習— R. A. メリット 47
3. 「人間関係科による」体験学習— トレーニング教育の学習— 柳原 光 64
II 南山短期大学人間関係科の10年
1. 教育の実践
— フィールドワーク—
1) 年次の授業の流れ 83
2) キリスト教概論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ 高本 雄 84
3) 人間関係概論A,B 柳原 光 89
4) 人間関係概論【(哲学的基礎・同演習)】 倉澤 俊三 95
4) 人間関係概論Ⅱ【(心理学的基礎・同演習)】 グラハア俊子 100
5) 人間関係概論Ⅲ【(社会的基礎・同演習)】 山口 真人 106
6) 人間関係研究法(その1) 星野 欣生 114
7) 人間関係研究法(その2) 星野 欣生 117
— フィールドワーク—
「年次の授業の流れ」に関する領域) 123
8) 人間関係各論Ⅰ(家族に関する領域) 伊藤 雅子 124
9) 人間関係各論Ⅱ(組織・集団に関する領域) 山口 真人 132
10) 人間関係各論Ⅲ(文化に関する領域) 森田 茂彦 136
11) 人間関係各論Ⅳ(教育に関する領域) R. A. メリット・倉澤俊三 141
12) 人間関係各論Ⅴ(援助法に関する領域) グラハア俊子 145
13) 人間関係総合実習(卒前) 山口 真人 150
14) 人間関係実習演習(卒業研究) 星野 欣生 156
2. 学生の学びとその軌跡
1) 在学2年間の卒業後5年間の個人の成長記録から 倉澤 俊三 162
2) 卒業生の追跡調査から 津村 俊充 179
3. 人間関係科に新しくかかわる教員として
1) 教師と学生のかわりをもくめて 木村 晴子 205
— 心理臨床分野の教員として—
2) 「体験学習」を哲学する 中野 清 208
— 体験と知とコトバ、知の複雑を求めて—
3) 人間関係科に新しくかかわる教員として
— 心理臨床分野の教員として— 木村 晴子 205
— 体験と知とコトバ、知の複雑を求めて— 中野 清 208
III 専業報告 (1984年)
I 研究会
1. 「もう一つの主婦像—商店のおかみさんたち」 天野 正子(千葉大学) 269
2. 人間関係科における体験学習— グラハア俊子(南山短大) 271
— 教員の十二年間—
3. 体験学習と理論学習をめぐって 中野 清(南山短大) 273
— 現状をめぐって—
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 277
2. 人間関係専門研修講座 279
3. 人間関係特定研修講座 281
4. コンサルテーション 283
5. 社会人研修参加者統計 285
6. 1985年度社会人研修予定 286
III 南山短期大学人間関係研究センター規程 288

目次

特別研究会 人間関係と自己表現 竹内 敏晴 2
特集 「自己表現」
I 自己表現ワークショップからの報告
自己表現ワークショップの概観 山口 真人 33
ワークショップ1「私の仮面作り」 木村 晴子 36
「 2 「自由に踊ろう、感ずるままに！」 会沢 俊三 46
「 3 「クリエイティブ・ペインティング」 山口 真人 53
「 4 「オリエントミミ」 グラハア 俊子 60
「 5 「精熟とスペイン舞踏—感情と表現—」 まどか 庸代 71
「 6 「絵本づくり—誕生—」 文珠紀久野 86
II 自己表現をめぐっての考察
1. チームづくりと自己表現 星野 欣生 93
2. 神秘体験にみる自己表現 大森 正樹 98
3. 現代文化と自己表現 樋田大二郎 102
ミニレクチャー
体験学習 星野 欣生 109
プロセスとは何か 津村 俊充 116
コミュニケーション・プロセス 山口 真人 120
邦訳ミニレクチャー
センシティビティ・トレーニングとは何か—Charles Seashore(津村俊充訳)— 125
グループ:その誕生から死までのサイクル—Richard C. Weber(津村俊充訳)— 130
レポート
人間関係研究センター社会人研修
「人間関係基礎研修の理論と実際」 津村 俊充 137
客員研究員から報告
「私の人間関係体験学習の中で」 高平百合子 150
専業報告 (1985, 1986年度)
I 研究会
1. 「今日からみた人間関係科創設の意義」 澤田 慶輔 153
2. 「スペインにおける生命倫理研究の現状」 まどか 庸代 155
II 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 158
2. 人間関係専門研修講座 159
3. 人間関係特定研修講座 162
4. コンサルテーション 164
5. 社会人研修参加者統計 166
6. 1987年度人間関係研究センター事業予定 167
南山短期大学人間関係研究センター規定 169

目次

巻頭言:「学習者を中心にした教育のあり方めぐって」 星野 欣生
特別研究会:「学習者を中心にした教育のあり方めぐって」 河津 雄介 2
特集/グループの中に生きる
1. 個を生かす集団・集団を生かす個 星野 欣生 45
2. キリスト教における個と集団 市瀬 英昭 50
3. 現代科学における個と集団の問題をめぐって— まどか 庸代 55
— 原子論からバイオロニクスの発想まで—
4. 人間関係科の教育における個と集団 山口 真人 69
— 関係に定位した教育の実現をめざして—
5. 「個」と「集団」 横山 彰 77
— 合流教育実践からの考察—
6. チームづくりのトレーニングと組織開発 星野 欣生 91
山元由美子
緒熊 京子
7. 企業内研修におけるグループトレーニング 本本 寛之 121
田辺 昂
8. 南山短大における集団不応 木村 晴子 130
— 学生相談室開設に向けての報告—
ミニレクチャー
援助者ということ 竹内 敏晴 139
態度価値と責任性存在 大森 正樹 144
対人感受性の開発 山口 真人 149
— 人間関係トレーニングの原理と実際—
レポート
NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング 津村 俊充 157
専業報告 (1987年度)
I. 研究会 171
II. 社会人研修
1. 人間関係基礎研修講座 175
2. 人間関係専門研修講座 178
3. 人間関係特定研修講座 180
4. コンサルテーション 183
5. 社会人研修参加者統計センター事業予定 185
6. 1988年度人間関係研究センター事業予定 186
南山短期大学人間関係研究センター規定 190

目次

巻頭言 ..... 伊藤 雅子

特別研究会：「自己との対話 十牛の図」 ..... 柳田 聖山… 1  
 “ ”：「水月の極意付り中墨のこと」 ..... 上原 輝男… 36

特集／対話

1. 対話的生 ..... 宮本 桂… 49
2. からの対話 ..... 竹内 敬晴… 57
3. Cross Cultural "Dialogue" in the Age  
 of Commodity Culture ..... R. A. メリット… 72
4. 典礼—神と人との対話 ..... 市瀬 英昭… 89
5. 神との対話としての折りといコン ..... 大森 正樹… 93
6. 聴くということ ..... 木村 晴子… 97
7. 専門化社会とおせっかい ..... 樋田大二郎… 103  
 —教師と生徒の対話についての—考察—
8. 科学者と宗教人との対話 ..... まどか庸代… 115

投稿：〔翻訳〕人間学 ..... O. マルカード（中野 清訳）… 127

レポート：教師のためのセミナー ..... 山口 真人… 147

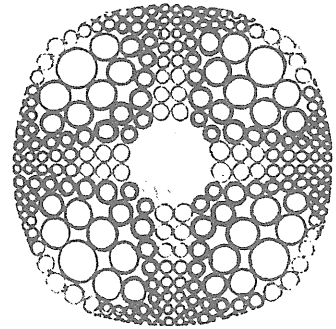
ミニレクチャー：

アクション・リサーチ ..... 星野 欣生… 155  
 人間関係の変革 ..... 山口 真人… 160  
 —社会的感受性と人間関係のスキル—

事業報告（1988年度）

1. 人間関係基礎研修講座 ..... 168
2. 人間関係専門研修講座 ..... 171
3. 人間関係特定研修講座 ..... 177
4. コンサルテーション ..... 180
5. 社会人研修参加者統計 ..... 182
6. 1988年度人間関係研究センター事業予定 ..... 183

南山短期大学人間関係研究センター規定 ..... 187



Human Relations vol. 6

1988

編集者 星野 欣生  
 津村 俊充  
 まどか 庸代

人間関係 第7号

1990年3月20日 発行

編集発行者 〒466 名古屋市昭和区隼人町19番地  
 電話 (052) 832-6214・6211  
 南山短期大学人間関係研究センター  
 代表者 星野 欣生

印刷所 榑尾頭橋印刷所  
 名古屋市中川区南脇町3丁目20番地  
 電話 (052) 351-6231番(代表)